

上記スリット2の長さは、ゆであげによつて、スリット2が開いて、第2図のようになつても、他の麺糸1がこのスリット2に入り込まない程度に設定されるとよい。これは麺糸1の断面の大きさによつて影響される。

このよう構成では、ゆであげる時、スリット2へは他の麺糸1が入り込まないので、麺糸が互いにからみ合つて、だんごになるおそれがない。
13. 節目部3がスリット2に入らないBに対する
また、フォークAの爪Bに対して係合する形で、滑り落ち防止の働きができる。

かお、上記実施例では、麺糸1に対するスリット2は縦一列に形成されるが、縦二列などに形成してもよい。また、第4図のように、スリット2を千鳥に配設してもよい。

本発明は以上詳述したように、単一麺糸に対し
て短いスリットを形成して、喰べる時のフォーク、
箸などのとまりを良くすることができ、しかも、
ゆであげる際、その構造上の特異性から、麺糸が
互いにからみ合つてだんごになるのを回避できる
もので、身体障害者、幼児など、フォーク、箸を

うまく使えない者も容易に麺糸を喰べられるよう
にするという効果が得られる。

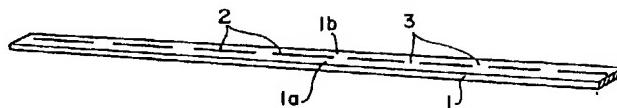
4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の一実施例を示す平面図、第2図はゆであげられた状態を示す斜視図、第3図はフォークで喰べる状況を示す斜視図、第4図は別の実施例の平面図である。

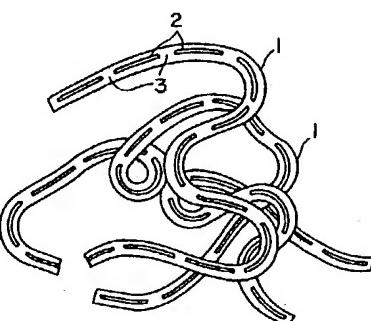
1 ……麺糸、1a、1b ……糸状部、2 ……スリット、3 ……節目部、A ……フォーク、B ……爪。

特許出願人 植木俊雄

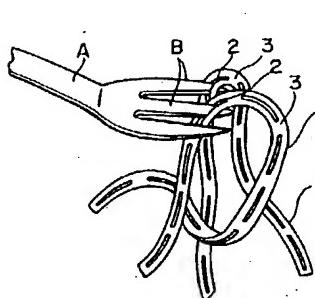
第1図



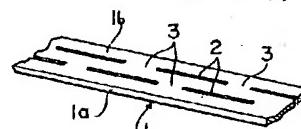
第2図



第3図



第4図



⑪ 公開特許公報 (A) 昭60-126044

⑫ Int.Cl.⁴

A 23 L 1/16

識別記号

府内整理番号

B-6904-4B

⑬ 公開 昭和60年(1985)7月5日

審査請求 有 発明の数 1 (全2頁)

⑭ 発明の名称 麺の構造

⑮ 特願 昭58-230952

⑯ 出願 昭58(1983)12月6日

⑰ 発明者 植木 俊雄 熊谷市曙町4丁目9番地

⑱ 出願人 植木 俊雄 熊谷市曙町4丁目9番地

明細書

1. 発明の名称

麺の構造

2. 特許請求の範囲

偏平な麺糸に短かいスリットを數本形成し、上記スリットにフォーク、箸などが挿入されるよう構成したことを特徴とする麺の構造。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、中華麺、日本麺、そば麺、スペゲッティ、スードルなどの麺の構造に関するものである。

これら麺類は、古来、糸状に形成されており、フォーク、箸などで吊り上げると、滑り落ち易い。そこで、インスタント麺では、麺糸にウエーブを付けるなどして、フォーク、箸などへのとまりをよくする工夫がなされているが、身体障害者、幼児などは、元来、フォーク、箸の使い方になれないから、麺類を食べる時、苦労することになり、敬遠される原因ともなる。

そこで、本発明者は先きに複数本の麺糸に共通

する節目部を設け、上記節目部をフォーク、箸などで保持する係合部分とした麺の構造を提唱した。しかし、複数の節目部を備える場合、ゆであげの時に、節目部間で麺糸の間に他の麺糸が入り込み、だんごになるおそれもある。

本発明は、上記事情にもとづいてなされたもので、フォーク、箸などのとまりを良くすると共に、ゆであげなどの際、他の麺糸とのからみ合いが起つてだんごになるのをさけられるようにし、麺としての特長を損わず、しかも、身体障害者、幼児などでも容易に喰べられるようにした麺の構造を提供しようとするものである。

以下、本発明の実施例を図面を参照して具体的に説明する。こゝでは偏平な麺糸1が用意される。この麺糸1は板状に形成された原麺をカッターで所定幅に裁断したもので、いわゆる手打ちあるいは機械そばなどの麺構造を持つている。この麺糸1はその糸状部1a、1bを細く形成するように、例えば2~3cm間隔でスリット2を形成していて、その間を節目部3で連繋した形態になつてゐる。

上記スリット2の長さは、ゆであげによつて、スリット2が開いて、第2図のようになつても、他の麺糸1がこのスリット2に入り込まない程度に設定されるとよい。これは麺糸1の断面の大きさに上つて影響される。

このような構成では、ゆであげる時、スリット2へは他の麺糸1が入り込まないので、麺糸が互いにからみ合つて、だんごになるおそれがない。
11. 箸Bがスリット2に入・爪Bに対し
また、フォークAの爪Bに対して保合する形で、滑り落ち防止の働きができる。

なお、上記実施例では、麺糸1に対するスリット2は縦一列に形成されるが、縦二列などに形成してもよい。また、第4図のように、スリット2を千鳥に配設してもよい。

本発明は以上詳述したように、単一麺糸に対し短いスリットを形成して、喰べる時のフォーク、箸などのとまりを良くすることができ。しかも、ゆであげる際、その構造上の特異性から、麺糸が互いにからみ合つてだんごになるのを回避できるもので、身体障害者、幼児など、フォーク、箸を

うまく使えない者も容易に麺糸を喰べられるようになるという効果が得られる。

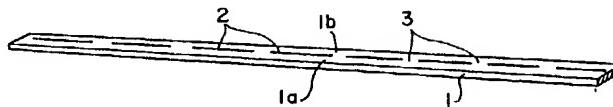
4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の一実施例を示す平面図、第2図はゆであげられた状態を示す斜視図、第3図はフォークで喰べる状況を示す斜視図、第4図は別の実施例の平面図である。

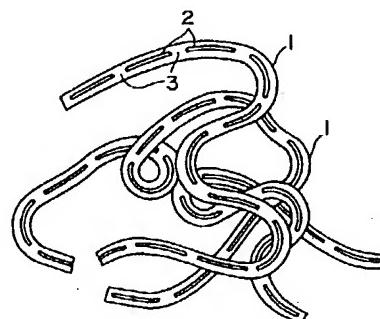
1 ……麺糸、1a、1b ……糸状部、2 ……スリット、3 ……節目部、A ……フォーク、B ……爪。

特許出願人 植木俊雄

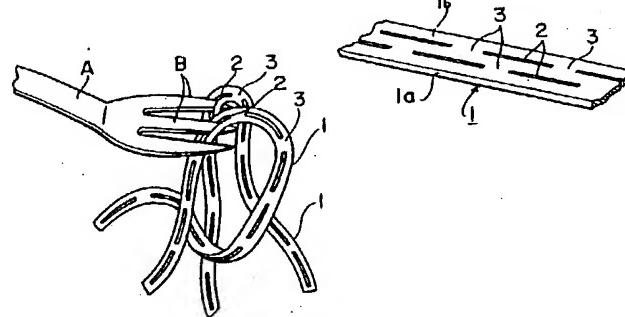
第1図



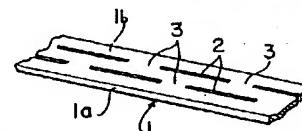
第2図



第3図



第4図



⑪ 公開特許公報 (A) 昭60-126044

⑫ Int.Cl.⁴

A 23 L 1/16

識別記号

庁内整理番号

B-6904-4B

⑬ 公開 昭和60年(1985)7月5日

審査請求 有 発明の数 1 (全2頁)

⑭ 発明の名称 麺の構造

⑮ 特願 昭58-230952

⑯ 出願 昭58(1983)12月6日

⑰ 発明者 植木 俊雄 熊谷市曙町4丁目9番地

⑱ 出願人 植木 俊雄 熊谷市曙町4丁目9番地

明細書

1. 発明の名称

麺の構造

2. 特許請求の範囲

偏平な麺糸に短かいスリットを數本形成し、上記スリットにフォーク、箸などが挿入されるよう構成したことを特徴とする麺の構造。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、中華麺、日本麺、そば麺、スペゲッティ、スードルなどの麺の構造に関するものである。

これら麺類は、古来、糸状に形成されており、フォーク、箸などで吊り上げると、滑り落ちやすい。そこで、インスタント麺では、麺糸にウエーブを付けるなどして、フォーク、箸などへのとまりをよくする工夫がなされているが、身体障害者、幼児などは、元来、フォーク、箸の使い方になれないから、麺類を食べる時、苦労することになり、敬遠される原因ともなる。

そこで、本発明者は先きに複数本の麺糸に共通

する節目部を設け、上記節目部をフォーク、箸などで保持する係合部分とした麺の構造を掲唱した。しかし、複数の節目部を備える場合、ゆであげの時に、節目部間で麺糸の間に他の麺糸が入り込み、だんごになるおそれもある。

本発明は、上記事情にもとづいてなされたもので、フォーク、箸などのとまりを良くすると共に、ゆであげなどの際、他の麺糸とのからみ合いが起つてだんごになるのをさけられるようにし、麺としての特長を損わず、しかも、身体障害者、幼児などでも容易に喰べられるようにした麺の構造を提供しようとするものである。

以下、本発明の実施例を図面を参照して具体的に説明する。こゝでは偏平な麺糸1が用意される。この麺糸1は板状に成形された原麺をカッターで所定幅に裁断したもので、いわゆる手打ちあるいは機械そばなどの麺構造を持つている。この麺糸1はその糸状部1a、1bを細く形成するように、例えば2~3cm間隔でスリット2を形成していて、その間を節目部3で連繋した形態になつてゐる。

PAT-NO: JP360126044A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 60126044 A
TITLE: STRUCTURE OF NOODLE
PUBN-DATE: July 5, 1985

INVENTOR- INFORMATION:

NAME
UEKI, TOSHIO

ASSIGNEE- INFORMATION:

NAME	COUNTRY
UEKI TOSHIO	N/A

APPL-NO: JP58230952

APPL-DATE: December 6, 1983

INT-CL (IPC): A23L001/16

US-CL-CURRENT: 426/451, 426/557

ABSTRACT:

PURPOSE: Noodles in which flat noodle strips have slits with a suitable space formed in a broken line along the longitudinal direction thereof and hardly slip off chopsticks or forks when eating.

CONSTITUTION: Noodles having a structure in which flat noodle strips 1 have slits 2 formed to separate into strip parts (1a) and (1b) and the adjacent strip parts are joined with knot parts 3 (provided that the length of the slits 2 is set at such an extent as not to make other noodle strips enter the slits 2 when the slits 2 are opened in boiling of the noodles).

The above-mentioned
noodle strips 1 can be held by fingers (B) of a fork (A)
entered into the slits
2 at the knot parts 3 in eating, and the above-mentioned
noodles can be easily
eaten even by babies, etc. without slipping off nor forming
dumplings due to
mutual entangling of the noodle strips 1 in boiling.

COPYRIGHT: (C)1985,JPO&Japio